概　要

位　　置　　と　　概　　要



当消防本部は、茨城県の南東部、千葉県に接する位置にあり、首都東京から 70~90ｋｍ圏、県都水戸市から 15~50ｋｍ圏内にあって、太平洋に面する鉾田市、霞ヶ浦と北浦に挟まれた潮来市及び行方市を管内としており、面積は 501.49ｋ㎡で、現在この管内を 1 本部 3 署 4 出張所で管轄している。

地勢は概ね平坦で、標高は 30~40ｍ程度であり、台地には畑地が広がり霞ヶ浦、北浦の沿岸には水田が広がる純農村地帯である。

また、管内には「鉾田海水浴場」をはじめとする多くの海水浴場と、「あやめ」で有名な水郷潮来があり、美しい自然環境に恵まれた気候温暖な地域である。


消防本部・鉾田消防署


玉 造 出 張 所


行 方 消 防 署


麻 生 出 張 所

〔消防本部の位置〕
東経　140°　31′　54″
北緯　　36°　　9′　54″




旭 出 張 所


大 洋 出 張 所


潮 来 消 防 署

構　成　市　の　紹　介

潮来市（いたこし）

丸は円満・充足そして絶えずやすみなく向上するサイクルを表わし、中央に水郷のシンボルである水の流れで恒久の繁栄を願望し、全体として「いたこ」の「い」を図案化したものです。

役所所在地　〒311-2493　潮来市辻６２６
☎０２９９-６３-１１１１　FAX０２９９-８０-１１００

《沿　革》

平成１３年４月１日　合併・市制施行
潮来町・牛堀町

《基本構想のテーマ・理念等》

豊かな自然　あふれる元気　みんなでつくる水の郷

《市の花・木・鳥》

花：あやめ　　木：ポプラ　　鳥：よしきり

《特産物》

すずめ焼・てっぽう漬け・あやめ・まこも
川魚料理・潮来あやめちゃん（特別栽培米）
一番星（特別栽培米）・お煎餅・地酒

《観光地・史跡等》

水郷潮来あやめ園・噴水スポット「ＷＡｉＷＡｉファンタジア」・茨城県水郷県民の森・権現山公園・二本松寺（あじさいの杜）・稲荷山公園・長勝寺・潮音寺・水郷北斎公園・道の駅いたこ・水郷トンボ公園・酒蔵・水郷旧家磯山邸・白鳥の里・大生神社・鹿見塚古墳・島崎城址



《嫁　入　り　舟》
利根川水運の中心のまち･潮来は、水郷観光の拠点でもあります。その潮来の一大イベントが５月下旬から６月下旬までに開催される「あやめまつり」です。
「あやめまつり」の期間中、あやめ園沿いに流れる前川で運航される嫁入り舟は、水郷情緒豊かな美しい風景です。

《地勢・風土等》

潮来市は、茨城県南東部に位置し、北側は行方市、南側は神栖市、東側は鹿嶋市、西側は千葉県香取市に隣接している。
面積は７１．４０㎢で、北部には行方台地が南北に続き、東部は北浦、西部は霞ケ浦と常陸利根川、南部は外浪逆浦というように水辺に囲まれた自然豊かな地域である。
江戸時代には水運の拠点として繁栄し、文人墨客が訪れるなど多くの人たちの盛んな交流の中で独自の歴史や文化を育んできた。また、豊かな自然を背景に水郷筑波国定公園の一部として指定され、観光地として全国的にも知られている。
このような中で、長い歴史と文化を有し、豊かな水辺などの自然に囲まれて生れた潮来市では、住んで、遊んで、働いて、交流する活気に満ちたまちづくりを実現するとともに、「住民と自然」「住民と交流者」というような多様な交流を活発化の手段として大切にし、まちづくりを進めている。

行方市（なめがたし）

行方市の「N」と帆引き船の帆をモチーフとした市章です。
3つの帆は、麻生町・北浦町・玉造町を表しています。それぞれの色は、赤『降りそそぐ太陽』、青『霞ヶ浦・北浦』、黄緑『豊かな自然』をイメージしています。行方市の発展と飛躍を表現しています。

役所所在地　〒311-3832 行方市麻生1561－9
☎０２９９－７２－０８１１ FAX０２９９－７２－２１７４

《沿　革》

平成１７年９月２日　合併・市制施行
麻生町・北浦町・玉造町

《特産物》

- さつまいも（茨城県銘柄産地指定）
- エシャレット（茨城県銘柄産地指定）
- いちご（茨城県銘柄産地指定）
- みず菜（茨城県銘柄産地指定）
- わさび菜（茨城県銘柄産地指定）
- セリ（茨城県銘柄産地指定）
- 春菊（茨城県銘柄産地指定）
- 豚肉、つくだ煮、れんこん　等



《観光地・史跡等》

- 大日塚古墳の埴輪「猿」（国指定重要文化財）
- 西蓮寺仁王門（国指定重要文化財）
- 麻生藩家老屋敷記念館（県指定有形文化財）
- 大山守大塲家郷士屋敷（県指定有形文化財）
- 如意輪観音坐像（県指定有形文化財）
- 萬福寺（市指定文化財）
- ふるさと山百合まつり（西蓮寺）　　等

《伝統芸能》

- 八坂神社の馬出し祭り
- どぶろく祭（青沼春日神社）
- 西蓮寺　常行三昧会
- 大麻神社祭礼
- 化蘇沼稲荷神社夏祭り
- 山田祇園祭り　　等



《霞ヶ浦ふれあいランド　虹の塔》

霞ヶ浦大橋のたもとにそびえる玉造・虹の塔。
遠くからでも見える霞ヶ浦ふれあいランドのシンボルです。高さは約60メートル、展望台に上がれば360度の大パノラマが拡がります。ふれあいランド内には水の科学館、親水公園なども併設され霞ヶ浦の水、霞ヶ浦開発について紹介されており、休日にはたくさんの親子連れなどで賑わいます。

《地勢・風土等》

茨城県の東南部に位置し、東京都心から約70km、県都水戸市から約40kmの距離にあります。面積は222.48㎢で、東西約12km、南北約24kmの形状となっており、北は鉾田市と小美玉市、南は潮来市に隣接し、東は北浦、西は霞ヶ浦（西浦）に面しています。内陸部は標高30m前後の行方大地により形成されており、霞ヶ浦沿岸部は概ねなだらかで連続的な稜線であるのに対し、北浦沿岸部は比較的起伏に富んでいます。
倭武天皇が、神輿で現原の岡においでになり、御膳を召し上がり、辺りを散策して美しい景観に心惹かれ、「行細国（なみくはしくに）」と仰せになったことから、「行方」の地名の起こりとされています。

鉾田市（ほこたし）

朝日が昇る様子をモチーフに、人と豊かな自然環境の調和を図り、街が大きく発展していく様子を表し、波型は「人と自然の調和」を表現しています。

役所所在地　〒311-1592　鉾田市鉾田１４４４－１
☎０２９１-３３-２１１１　FAX０２９１-３２-４４４３

《沿　革》

平成１７年１０月１１日　合併・市制施行
鉾田町・旭村・大洋村

《基本構想のテーマ・理念等》

『「いのち」と「くらし」の先進都市』

《市の花・木・鳥》

花：ヒマワリ　　木：サクラ
鳥：ウグイス

《特産物》

メロン・かんしょ・みず菜・ごぼう
トマト・いちご

《観光地・史跡等》

鹿島灘海浜公園
厳島神社（子生弁財天）
大蔵山福泉寺（釈迦如来立像）
無量寿寺



《鉾田ブランド》

鉾田市の農畜産物は、全国トップクラスの産出額を誇っています。特にメロン・かんしょ・みず菜・ごぼう・トマト・いちごなどが有名です。現在、市では、農畜産物を中心とした地域資源を『鉾田ブランド』として全国へ発信しています。

《地勢・風土等》

鉾田市は、首都東京から約90kmの茨城県東南部に位置し、北浦と涸沼に接しており、水と緑に囲まれ豊かな自然の恵みを受けている。北は茨城町、大洗町、南は鹿嶋市、東は鹿島灘、西は行方市、小美玉市に接し、その内陸部のほとんどは平坦地となっている。この平坦な地形と2つの湖沼に流入する河川に沿って水田や湿地帯が広がっており、台地部は農産物を生産するのに適した肥沃な農業用地となっている。

基幹産業は温和な気候を活かした農業であり、首都圏全体の食料供給を担う地域として、主に施設園芸作物を中心に栽培しており、メロンやいちご、トマト、かんしょは全国有数の生産地としても知られている。

人口・世帯数及び面積

（平成28年4月1日現在）

区分		人口（人）			世帯数（世帯）	面積（k㎡）
		合計	男	女		
鉾田消防署	鉾田市	50,400	25,653	24,747	19,769	207.61
潮来消防署	潮来市	28,804	14,321	14,483	11,010	71.40
行方消防署	行方市	36,522	18,188	18,334	12,746	222.48
総合計		115,726	58,162	57,564	43,525	501.49

最近5年間の広域圏内の推移

（各年4月1日現在）

区分	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
人口	119, 494	117, 911	118, 529	118, 089	116,726
世帯数	39, 697	39, 842	41, 769	42, 887	43,105

鹿　行　消　防　力　一　覧　表

消防本部の現有勢力

（平成２８年４月１日現在）

区　分	消防本部	消防署	出張所	職員数	水槽付消防ポンプ自動車	化学消防ポンプ自動車	消防ポンプ自動車	救急自動車	指揮自動車	消防広報車	資機材搬送車	救助艇	救命ボート
合　計	1	3	4	206	5	2	6	9	4	11	1	1	1
消防本部	1			41					1	3			
鉾田消防署		1		39		1	2	2(1)	1	1			
旭出張所			1	12	1			1(1)		1			
大洋出張所			1	12	1			1(1)		1			
潮来消防署		1		39	1		2	2(2)	1	2		1	
行方消防署		1		39	1		2	1(1)	1	1	1		1
麻生出張所			1	12	1			1(1)		1			
玉造出張所			1	12		1		1(1)		1			

※　（　）内の数字は内数であり、高規格救急自動車の台数を示す。

※　　職員数に行政職員１人を含む。

消防団の現有勢力

（平成２８年４月１日現在）

区　分	消防団	消防分団	消防団員	水槽付消防ポンプ自動車	消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ付積載車	消防広報車
合　計	3	109	3,274	17	52	131	7
潮来市	1	13	622	6	15	20	1
行方市	1	14	1,314	6	7	60	3
鉾田市	1	82	1,338	5	30	51	3

鹿行広域消防のあゆみ

昭和４７年　４月	鹿行地方広域市町村圏事務組合発足する。
１２月	鹿行非常備８か町村において山梨県の組合消防を視察
昭和４８年　１月	管理者会において組合消防実施を決定する。
昭和４９年　６月	常設消防研究部会発足する。
昭和５０年　２月	消防本部・消防署開設準備室発足する。
３月	地方自治法第２８４条による一部事務組合解散する。
４月	地方自治法第２８５条による複合事務組合発足する。
４月	鹿島郡北部３か町村（旭村・鉾田町・大洋村）、行方郡５か町村（麻生町・牛堀町・潮来町・北浦村・玉造町）をもって消防本部、消防署発足する。 （職員定数１４２名・実員７９名） 初代消防長（事務取扱）に管理者飯島　久就任する。
４月	鉾田町中央公民館内に本部事務所を仮設し、消防事務を開始する。
４月	職員１名退職
５月	各消防署の事務所を下記に仮設し、消防事業を開始する。 鹿島北部消防署（鉾田町中央公民館内） 行方南部消防署（旧潮来食糧事務所内） 行方北部消防署（麻生町公民館内）
５月	初代消防本部次長に永峯剛次就任する。
６月	職員１名採用
６月	消防本部・消防署に車両配備する。 消防本部　指令車　1　台 鹿島北部消防署　指令車　1　台 救急車　2　台 行方南部消防署　指令車　1　台 救急車　1　台 行方北部消防署　指令車　1　台 救急車　1　台
６月	社団法人日本船舶振興会から救急車１台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
７月	各消防署に１１９専用電話を架設し、救急業務を開始する。
７月	職員２名採用
９月	水槽付消防ポンプ自動車３台を購入し、各消防署に配置する。
１０月	各消防署災害活動事業を開始する。
１０月	小型動力消防ポンプ３台を購入し、各水槽付消防ポンプ自動車に積載する。
１１月	消防本部・消防署新庁舎起工式を合同で行う。
１２月	無線局開局（基地局３、移動局１１）
昭和５１年　４月	職員９名採用

４月	消防本部、鹿島北部消防署鉾田町中央公民館から仮庁舎（鉾田町役場敷地内）へ移転する。
５月	職員１名採用
５月	行方北部消防署新庁舎へ移転する。
５月	消防本部、鹿島北部消防署新庁舎へ移転する。
６月	組織の整備により消防本部課制施行
６月	職員４８名採用
６月	職員１名採用
６月	広報車１台を購入し、消防本部に配置する。
７月	職員１名採用
８月	新庁舎の合同落成式を行う。
９月	行方南部消防署新庁舎へ移転する。
９月	初代消防長（事務取扱）管理者飯島　久退任する。
９月	第２代消防長（事務取扱）管理者井川　茂芳就任する。
１０月	職員１名採用
１１月	消防ポンプ自動車３台を購入し、各消防署に配置する。
昭和５２年　３月	職員３名退職
５月	第２代消防本部次長　飯島　勝寿就任する。
６月	広報車３台を購入し、各消防署に配置する。
昭和５３年　１月	第１回鹿行広域消防本部出初式を挙行する。
３月	社団法人日本自動車工業会から救急車１台が寄贈され、行方北部消防署に配置する。
４月	社団法人日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車１台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
６月	職員１名退職
６月	職員１名採用
１０月	鹿行地方広域市町村圏事務組合消防本部特別救助隊発足する。
１２月	消防ポンプ自動車３台を購入し、各消防署に配置する。
昭和５４年　２月	第２代消防長（事務取扱）管理者井川　茂芳退任する。
２月	第３代消防長飯島勝寿就任する。
３月	鹿島北部消防署、行方北部消防署の第２車庫を建設する。
８月	第３代消防本部次長　高品　喜代志就任する。
９月	職員２名採用
１１月	指揮車１台を購入し、消防本部に配置する。
昭和５５年　６月	救急自動車１台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
昭和５７年　６月	第３代消防長　飯島　勝寿退職する。
６月	第４代消防長（事務取扱）管理者塙　晟就任する。
昭和５８年　３月	職員１名退職
５月	第４代消防長（事務取扱）管理者塙　晟退任する。

６月	第５代消防長　白井　叶就任する。
６月	広報車１台更新、消防本部に配置する。
１２月	救急自動車１台を更新し、行方南部消防署に配置する。
１２月	職員２名退職
昭和５９年　３月	社団法人日本損害保険協会から救急車１台が寄贈され、行方北部消防署に配置する。
４月	職員４名採用
４月	職員１名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
４月	４週５休制度実施される。
４月	茨城県防災行政無線電話稼動
５月	消防規程集を発行する。
昭和６０年　２月	指令車１台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
３月	社団法人日本損害保険協会から救急車１台が寄贈され、鹿島北部消防署に配置する。
３月	第３代消防本部次長　高品　喜代志退職する。
５月	指令車１台を更新し、行方北部消防署に配置する。
昭和６１年　１月	指令車２台を更新し、消防本部、行方南部消防署に配置する。
１月	職員１名退職
３月	救急自動車１台を更新し、行方南部消防署に配置する。
４月	職員１名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
６月	広報車３台を更新し、鹿島北部消防署、行方南部消防署、行方北部消防署に配置する。
８月	社団法人日本損害保険協会との共催により防災講演会を実施する。
昭和６２年　３月	第５代消防長　白井　叶退職する。
４月	第６代消防長　高野　登就任する。
４月	第４代消防本部次長　小林　廣就任する。
８月	社団法人日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車１台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
９月	昭和５０年に行方北部消防署に配置した水槽付消防ポンプ自動車を牛堀町に払い下げる。
９月	救急講演会を開催する。
１０月	第３回全国婦人消防操法大会（横浜市）に北浦村長野江婦人防火クラブが出場する。
１１月	東関東自動車道潮来佐原インター区間の救急業務を開始する。
昭和６３年　２月	救急自動車１台を更新し、行方北部消防署に配置する。
３月	化学消防ポンプ自動車１台を購入し、鹿島北部消防署に配置する。
３月	４週６休制試行される。
３月	第４代消防本部次長　小林　廣退職する。
４月	職員定数１４６名となる。

	４月	職員８名採用
	４月	第５代消防本部次長　野島　清司就任する。
	４月	職員１名鹿行広域事務局へ出向
		職員１名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
		職員１名鹿行広域事務局から転入
	７月	昭和５０年に鹿島北部消防署に配置した水槽付消防ポンプ自動車を旭村に払い下げる。
	９月	救急講演会を開催する。
平成　元年	３月	社団法人日本自動車工業会から救急自動車１台が寄贈され、鹿島北部消防署に配置する。
平成　２年	２月	職員１名退職
	３月	化学消防自動車１台を購入し、行方北部消防署に配置する。
	４月	職員１名鹿行広域事務局へ出向
		職員１名鹿行広域事務局から転入
	４月	第２・第４土曜閉庁制度実施される。
	４月	消防本部及び消防署の組織の一部を改正する。
	５月	水難救助用救命ボート１艇を購入し、行方北部消防署に配置する。
	６月	昭和５０年に行方南部消防署に配置した水槽付消防ポンプ自動車を潮来町に払い下げる。
	８月	「第５回茨城県幼年少年婦人防火大会」鉾田町総合公園体育館で開催される。
平成　３年	１月	職員１名退職
	３月	消防ポンプ自動車１台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	３月	職員１名退職
	３月	第６代消防長　高野　登退職する。
	４月	第７代消防長　土子　貞男就任する。（鹿行広域事務局から転入）
	４月	第５代消防本部次長　野島　清司鹿行広域事務局へ出向
	４月	第６代消防本部次長　岡崎　一郎就任する。
	４月	消防署の組織の一部を改正する。
	４月	職員４名採用
	４月	初代消防本部次長永峯剛次勲五等瑞宝章を受章する。
	５月	水難救助艇１艇を購入し、行方南部消防署に配置する。
	６月	財団法人日本防火協会から防火広報車１台が寄贈され、消防本部に配置する。
	１１月	指揮車１台を更新し、消防本部に配置する。
	１２月	ひとり暮らし老人等緊急通報システム稼動
平成　４年	３月	消防ポンプ自動車１台を更新し、行方北部消防署に配置する。
	３月	第６代消防本部次長岡崎一郎退職する。
	４月	職員２名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向

4月	職員４名採用
7月	鹿島北部消防署救助隊、第２１回消防救助技術関東地区指導会（会場千葉市）へ出場
9月	資機材運搬車１台を購入し、行方北部消防署に配置する。
１２月	土曜閉庁制度実施される。
１２月	隔日勤務者の週４２時間勤務態勢実施する。
１２月	救急自動車心電図伝送システム稼動（救急車３台）
平成　５年　３月	消防ポンプ自動車１台を更新し、行方北部消防署と行方南部消防署に配置する。
4月	職員定員１５０名となる。
4月	職員４名採用
4月	昭和５９年に行方北部消防署に配置した救急自動車１台を麻生町ライオンズクラブに寄贈する。
7月	鹿島北部消防署救助隊、第２２回消防救助技術関東地区指導会（会場横浜市）へ出場
１１月	広報車１台を更新し、消防本部に配置する。
平成　６年　３月	救急自動車１台を更新し、行方南部消防署に配置する
3月	消防ポンプ自動車１台を更新し、行方北部消防署に配置する。
3月	消防無線基地局更新（鹿島北部消防署）
4月	隔日勤務者の週４０時間勤務態勢実施する。
4月	救急救命士誕生
7月	鹿島北部消防署救助隊、第２３回消防救助技術関東地区指導会（会場大宮市）へ出場（入賞）
平成　７年　１月	防災航空隊派遣職員研修開始
2月	消防無線基地局更新（行方南部消防署）
3月	高規格救急自動車１台を購入し、鹿島北部消防署に配置する。
4月	防災航空隊へ職員１名派遣
7月	第４回全国消防長会組合消防委員会関東支部委員会を開催する。
7月	救急自動車１台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
7月	鹿島北部消防署救助隊及び行方北部消防署救助隊、第２４回消防救助技術関東地区指導会（会場厚木市）へ出場（入賞）
１１月	救急救命士誕生（計２名となる）
平成　８年　３月	消防無線基地局更新（行方北部消防署）
3月	消防ポンプ自動車１台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
4月	第７代消防長土子貞男鹿行広域事務局へ出向
4月	第８代消防長野島清司就任する。（鹿行広域事務局から転入）
4月	職員１名霞ヶ浦聖苑へ出向
4月	職員１名退職
5月	元鹿島北部消防署長島田福壽勲五等瑞宝章を受章する。

	６月	広報車３台を更新し、各署へ配置する。
	７月	行方北部消防署救助隊、第２５回消防救助技術関東地区指導会（会場東京都）へ出場（入賞）
	１１月	指令車１台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	１１月	救急救命士誕生（計３名となる）
	１２月	職員１名退職
平成　９年	３月	職員１名退職
	３月	第８代消防長　野島　清司退職する。
	４月	第９代消防長　茂木　英雄就任する。
	４月	職員定数１５４名となる。
	４月	職員８名採用
	６月	行方南部消防署空調設備更新
	７月	職員１名採用
	８月	社団法人日本損害保険協会から水槽付ポンプ自動車１台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
	９月	職員１名退職
	９月	消防出張所整備計画決定（管理者会）
	１０月	行方北部消防署庁舎屋上防水工事実施
	１２月	指令車３台を更新し、消防本部、行方南部消防署及び行方北部消防署に配置する。
平成１０年	３月	防災航空隊職員派遣終了
	４月	職員定数１８６名となる。
	４月	救急救命士誕生（計４名となる。）
	６月	鹿島北部消防署空調設備更新
	１０月	携帯電話等からの１１９番通報受付開始
平成１１年	３月	社団法人日本自動車工業会から高規格救急自動車１台が寄贈され、行方南部消防署に配置する。
	４月	職員８名採用
	４月	救急救命士誕生（計５名となる。）
	６月	職員１名退職
	９月	安全研修会開催
平成１２年	２月	第２３回全国消防職員意見発表茨城県大会開催（北浦町）
	３月	化学消防ポンプ自動車１台を更新し、鹿島北部消防署に配置する。
	３月	水槽付消防ポンプ自動車１台を購入し、行方南部消防署に配置する。
	３月	鹿島北部消防署大洋出張所竣工
	４月	鹿島北部消防署大洋出張所業務開始
	４月	職員９名採用
	４月	救急救命士誕生（計６名となる。）
	５月	行方北部消防署庁舎外壁塗装工事実施

	６月	職員１名退職
	７月	鹿島北部消防署救助隊第２９回消防救助技術関東地区指導会（会場戸田市）へ出場
	１０月	広報車１台を購入し、鹿島北部消防署大洋出張所へ配置する。
平成１３年	２月	防災航空隊へ職員１名派遣
	３月	高規格救急車１台を購入し、行方北部消防署へ配置する。
	３月	行方北部消防署玉造出張所竣工
	３月	職員１名退職
	４月	行方北部消防署玉造出張所業務開始
	４月	第７代消防本部次長　塚本　義美就任する。
	４月	職員１０名採用
	４月	職員１名霞ヶ浦聖苑へ出向
	４月	牛堀町と潮来町が合併し、潮来市となる。これによって、構成市町村は、１市４町２村となる。
	４月	救急救命士誕生（計７名となる。）
	５月	広報車１台を購入し、行方北部消防署玉造出張所へ配置する。
	６月	行方北部消防署空調設備更新
	１０月	救急救命士誕生（計８名となる。）
	１２月	職員１名退職
平成１４年	１月	潮来市在住の岩本氏より広報車１台が寄贈される。
	１月	消防本部・鹿島北部消防署屋上防水工事実施
	２月	救急自動車１台を更新し、行方北部消防署玉造出張所に配置する。
	２月	広報車１台を購入し、鹿島北部消防署旭出張所へ配置する。
	２月	鹿島北部消防署旭出張所竣工
	３月	消防本部・鹿島北部消防署庁舎防水工事実施
	３月	職員１名退職
	４月	鹿島北部消防署旭出張所業務開始
	４月	職員１１名採用
	６月	ワールドカップサッカー大会開催に伴う消防警戒実施
	７月	消防緊急通信指令室整備計画着手
	７月	鹿島北部消防署・行方北部消防署救助隊第３１回消防救助技術関東地区指導会（会場千葉市）へ出場
	１２月	化学消防ポンプ自動車１台を更新し、行方北部消防署玉造出張所へ配置する。
平成１５年	２月	救急自動車１台を更新し、鹿島北部消防署大洋出張所へ配置する。
	２月	広報車１台を購入し、行方北部消防署麻生出張所へ配置する。
	２月	消防職員意見発表茨城県大会において、消防本部太田　衛消防士長最優秀賞受賞。茨城県代表となる。
	２月	行方北部消防署麻生出張所竣工

	３月	第７代消防本部次長　塚本　義美退職する。
	３月	職員２名退職
	３月	職員１名介護審査会事務所へ出向
	４月	職員定数２０４名となる。
	４月	行方北部消防署麻生出張所業務開始
	４月	消防本部・消防署に救急係を設ける。
	４月	第８代消防本部次長　出村　正雄就任する。
	４月	職員１名霞ヶ浦聖苑から転入
	４月	職員８名採用
	４月	救急救命士誕生(９名となる。)
	４月	メディカルコントロール協議会設立
	４月	消防職員意見発表関東大会(千葉市)において、消防本部太田　衛消防士長最優秀賞受賞。関東支部代表となる。
	６月	消防職員意見発表全国大会(広島市)へ関東支部代表として消防本部太田　衛消防士長出場。(入賞)
	６月	消防本部･鹿島北部消防署変電設備改修工事実施
	６月	消防本部空調設備･鹿島北部消防署給湯設備改修工事実施
	１１月	救急救命士誕生(１０名となる。)
	１２月	水槽付消防ポンプ自動車１台を更新し、鹿島北部消防署旭出張所へ配置する。
	１２月	高規格救急自動車１台を更新し、鹿島北部消防署へ配置する。
平成１６年	１月	消防緊急通信指令室増築工事完了
	２月	消防職員意見発表茨城県大会において、消防本部 関　孝昭消防司令補優秀賞受賞
	２月	２Ｂ型救急自動車１台を更新し、行方南部消防署に配置する。
	３月	防災航空隊へ派遣中の職員１名、派遣期間終了
	３月	職員１名退職
	３月	第９代消防長　茂木　英雄退職する。
	４月	第１０代消防長　出村　正雄就任する。
	４月	第９代消防本部次長　真家　正隆就任する。
	４月	職員８名採用
	７月	職員１名退職
	１１月	救急救命士１名誕生(１１名となる)
平成１７年	２月	日本損害保険協会から高規格救急車１台が寄贈され、行方北部消防署麻生出張所に配置する。
	２月	消防職員意見発表茨城県大会において、行方南部消防署 高崎　英明消防士長優秀賞受賞。
	３月	職員１名退職
	４月	高機能消防指令センター総合整備事業の運用業務開始

４月	職員４名採用
４月	組織機構の改革・消防本部警防課に指令室を置き、３課１０係となる。 消防署に管理課、第１課、第２課を設け、これによって、３課７係となる。 出張所に庶務係を設け、３係となる。
４月	職員１名退職
５月	救急救命士１名誕生(１２名となる)
９月	職員１名退職
１１月	広報車１台を更新し、消防本部に配置する。
１２月	救急救命士１名誕生(１３名となる)
１２月	職員１名退職
平成１８年　１月	職員１名退職
１月	組合名称を「鹿行広域事務組合」に変更する。
２月	組合名称変更に伴い消防本部・消防署の名称を変更する。 ・「鹿行広域事務組合消防本部」 ・「鹿行広域事務組合鉾田消防署」 ・「鹿行広域事務組合潮来消防署」 ・「鹿行広域事務組合行方消防署」
３月	水槽付消防ポンプ自動車１台を更新し、鉾田消防署大洋出張所へ配置する。
３月	水槽付消防ポンプ自動車１台を更新し、行方消防署麻生出張所へ配置する。
３月	指揮車１台を更新し、消防本部に配置する。
３月	職員１名退職
３月	第９代消防本部次長 真家　正隆退職する。
４月	第１０代消防長 出村　正雄鹿行広域事務局へ出向
４月	第１１代消防長　(事務取扱) 管理者今泉和就任する。
４月	第１０代消防本部次長 野村　喜義、小室　守就任する。
４月	職員１名霞ヶ浦聖苑へ出向
４月	職員１名鹿行広域事務組合事務局へ出向
４月	職員２名鹿行広域事務組合事務局から転入
４月	職員２名養護老人ホーム鹿行潮来荘から転入
４月	職員６名採用
４月	庁舎周辺に落雷があり通信指令装置に被害が出る。
４月	第１１代消防長　(事務取扱) 管理者今泉和退任する。
５月	第１２代消防長　(事務取扱) 管理者鬼沢保平就任する。
５月	救急救命士１名誕生(１４名となる)
９月	職員１名退職
９月	元参事兼警防課長宮本　二郎　瑞宝双光章を受章する。
１０月	職員１名退職
１２月	消防ポンプ自動車（ＣＤⅡ）１台を更新し、鉾田消防署へ配置する。
１２月	高規格救急車１台を更新し、鉾田消防署旭出張所へ配置する。
平成１９年　１月	通信指令装置等の修繕工事が完了する。

	１月	鉾田消防署のホース乾燥塔の補修工事が完了する。
	１月	元消防司令補　松信　正二　瑞宝単光章を受章する。
	３月	潮来消防署の変電設備交換工事が完了する。
	３月	職員３名退職
	４月	職員１名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
	４月	職員１名審査会事務所から転入
	４月	職員５名採用
	５月	救急救命士が４名誕生（１８名となる。）
	６月	広報車１台を消防本部から鉾田消防署へ配置替えする。
	６月	広報車１台を更新し潮来消防署へ配置する。
	６月	広報車１台を更新し行方消防署へ配置する。
	６月	消防本部の広報車（防火号）を廃棄し、搬送連絡車を配置する。
	７月	行方消防署の給湯設備改修工事が完了する。
	１２月	水槽付消防ポンプ自動車Ｉ－Ｂ型１台を麻生出張所に配置する。
	１２月	麻生出張所に配置していた化学消防ポンプ自動車を廃棄する。
	１２月	職員１名退職
	１２月	潮来消防署の大規模改修工事が完了する。
平成２０年	２月	潮来消防署の井戸ポンプ交換工事が完了する。
	３月	行方消防署の変電設備交換工事が完了する。
	３月	職員３名退職
	３月	第１２代消防長　（事務取扱）管理者鬼沢保平退任する。
	４月	第１３代消防長　小室　守就任する。
	４月	職員２名養護老人ホーム鹿行潮来荘へ出向
	４月	職員１名茨城県防災航空室へ派遣（平成２２年度末までの予定）
	４月	職員１名鹿行広域事務組合事務局から転入
	４月	職員７名採用
	５月	救急救命士が３名誕生（２１名となる。）
	９月	職員１名退職
	１０月	防火衣（上下型）を個人貸与する。
	１２月	高規格救急車１台を更新し行方消防署へ配置する。
	１２月	高規格救急車１台を更新し潮来消防署へ配置する。
	１２月	職員１名退職
平成２１年	３月	職員５名退職
	４月	職員９名採用
	５月	救急救命士が２名誕生（２３名となる。）
	５月	事務連絡車を購入し消防本部に配置する。
	１２月	消防本部浄化槽設備改良工事が完了する。
平成２２年	２月	消防ポンプ自動車１台を更新し行方消防署に配置する。
	３月	職員８名が退職する。
	３月	第１０代消防本部次長　野村　喜義退職する。

平成２２年　４月	第１１代消防本部次長　石津　啓司就任する。
４月	職員１名鹿行広域事務組合事務局から転入
４月	職員１名鹿行広域事務組合事務局へ転出
４月	職員８名採用（採用者内に救急救命士１名）
５月	救急救命士が２名誕生（２６名となる。）
１０月	職員１名退職
１２月	職員１名退職
平成２３年　１月	高規格救急車１台を更新し、行方消防署玉造出張所へ配置する。
３月	一般社団法人日本自動車工業会から高規格救急自動車１台が寄贈され、鉾田消防署大洋出張所へ配置する。
３月	第１３代消防長　小室　守退職する。
３月	職員３名退職（退職者内に救急救命士１名）
４月	第１４代消防長　石津　啓司就任する。
４月	第１２代消防本部次長　立原　和夫就任する。
４月	職員６名採用（採用者内に救急救命士１名）
４月	茨城県生活環境部消防防災課へ１名派遣する。
４月	職員１名鹿行広域事務組合事務局から転入
４月	職員１名鹿行広域事務組合事務局へ転出
４月	週３８．７５時間勤務態勢実施する。
４月	茨城県防災航空室派遣終了
５月	救急救命士が２名誕生（２８名となる。）
７月	職員１名退職
８月	職員１名退職
１２月	消防ポンプ自動車（ＣＤⅡ）１台を更新し、潮来消防署へ配置する。
平成２４年　３月	第１４代消防長　石津　啓司退職する。
３月	第１２代消防本部次長　立原　和夫退職する。
３月	職員６名退職
４月	第１５代消防長　久保木　博就任する。
４月	第１３代消防本部次長　市村　茂夫就任する。
４月	職員８名採用
４月	元消防長　土子　貞男　瑞宝双光章を受章する。
５月	救急救命士が２名誕生（３０名となる。）
８月	職員１名退職
９月	防災功労者内閣総理大臣表彰を当消防本部が受賞する。
１０月	資機材搬送車１台を更新し、行方消防署へ配置する。
１２月	高規格救急車１台を更新し、鉾田消防署へ配置する。
１２月	職員１名退職
平成２５年　３月	第１５代消防長　久保木　博退職する。
３月	職員４名退職

３月	茨城県生活環境部消防安全課への派遣終了
４月	第１６代消防長　市村　茂夫就任する。
４月	第１４代消防本部次長　千野根　保就任する。
４月	職員定数２１４名となる。
４月	職員１１名採用
４月	茨城県立消防学校へ１名講師派遣する。
４月	救急救命士が４名誕生（３４名となる。）
４月	職員１名退職
４月	元消防司令長　伊勢山　正瑞宝単光章を受章する。
４月	県内２２消防本部により、茨城県消防救急デジタル無線及び高機能消防共同指令センター運営協議会を設立する。
１２月	高規格救急車１台を更新し、潮来消防署へ配置する。
平成２６年　１月	広報車１台を更新し、行方消防署へ配置する。
２月	消防ポンプ自動車１台を更新し、鉾田消防署へ配置する。
３月	消防長長官表彰（竿頭綬）を鹿行広域事務組合消防本部・行方市消防団が受章する。
３月	職員１５名退職
３月	第１６代消防長　市村　茂夫退職する。
３月	第１４代消防本部次長　千野根　保退職する。
４月	第１７代消防長　木内　清志就任する。
４月	第１５代消防本部次長　小見　幸男就任する。
４月	職員１１名採用
４月	救急救命士が３名誕生（３７名となる。）
４月	職員１名鹿行広域事務組合事務局から転入
４月	職員２名鹿行広域事務組合事務局へ転出
５月	元消防長　茂木　英雄　瑞宝双光章を受章する。
１０月	茨城県生活環境部消防安全課へ１名派遣する。
１２月	高規格救急車１台を更新し、行方消防署麻生出張所へ配置する。
平成２７年　３月	水槽付消防ポンプ自動車１台を更新し、潮来消防署へ配置する。
３月	職員１０名退職
３月	第１７代消防長　木内　清志退職する。
３月	茨城県立消防学校への講師派遣終了
４月	第１８代消防長　小見　幸男就任する。
４月	第１６代消防本部次長　飯塚　祥裕就任する。
４月	職員１２名採用
４月	職員１名茨城県防災航空室へ派遣（平成２９年度末までの予定）
４月	消防署の組織に関する一部改正 消防署の係を統合し、３課５係となる。 出張所の係を統合し、２係となる。
４月	救急救命士が５名誕生（４２名となる。）

４月	元消防本部次長　真家　正隆　瑞宝双光章を受章する。
５月	いばらき消防指令センター行方基地局の無線アンテナ工事が完了する。
６月	事務連絡車１台を更新し、消防本部に配置する。
１１月	茨城県生活環境部消防安全課への派遣終了
１２月	消防本部・鉾田消防署庁舎の耐震補強工事が完了する。
平成２８年　２月	消防ポンプ自動車１台を更新し、行方消防署へ配置する。
２月	行方消防署の消防ポンプ自動車１台を潮来消防暑へ配置換えする。
２月	いばらき消防指令センターのデジタル無線運用開始となる。
２月	いばらき消防指令センターへ職員３名派遣
２月	消防本部の組織に関する規則の一部改正 消防本部警防課指令室の名称を変更し、消防本部警防課指揮情報室とする。 指令第一及び第二係を統合し指揮情報係を設け、３課９係となる。
３月	行方消防署庁舎の防水改修工事が完了する。
３月	職員９名退職（退職者内に救急救命士１名）
３月	第１８代消防長　小見　幸男退職する。
４月	第１９代消防長　飯塚　祥裕就任する。
４月	第１７代消防本部次長　長峰　義美就任する。
４月	職員１０名採用
４月	救急救命士が２名誕生（４３名となる。）